

## 履 歴 書

平成26年2月1日現在

ふりがな	た く か な こ	
氏 名	宅 香 菜 子	
現在の身分	ミシガン州 オークランド大学 心理学部 アシスタントプロフェッサー ミシガン州 オークランド大学ウィリアムバーモント医学研究科 家庭医学部 アシ スタントプロフェッサー	
勤務先	Department of Psychology, Oakland University, Pryale Hall 123	Tel: +1-248-370-2309
住所	Rochester, MI 48309-4401 U.S.A.	Fax: +1-248-370-4612
E-mail	taku@oakland.edu	

学 歴	
年 月	事 項
平成 3年 3月	私立茗溪学園高等学校卒業
平成 4年 4月	神戸大学教育学部初等教育学科教育心理学専修入学
平成 8年 3月	神戸大学教育学部初等教育学科教育心理学専修卒業
平成 8年 4月	千葉大学大学院教育学研究科(修士課程)学校教育専攻教育心理学分野入学
平成10年 3月	千葉大学大学院教育学研究科(修士課程)学校教育専攻教育心理学分野修了
平成10年 4月	名古屋大学大学院教育発達科学研究科(博士課程後期)発達臨床学専攻入学
平成14年 4月	名古屋大学大学院教育発達科学研究科研究生
平成17年 3月	名古屋大学大学院教育発達科学研究科研究生博士学位（心理学）取得にて修了
学 位	
平成10年 3月	修士（千葉大学，教育学） 「ストレス対処方略が青年の適応感・充実感に及ぼす影響」
平成17年 3月	博士（名古屋大学，心理学） 「ストレス体験をきっかけとした青年の成長に関する研究」

職 歴		
年 月	事 項	
平成10年 9月	名古屋市立川名中学校非常勤「心の教室」相談員	平成11年8月まで
平成10年 9月	名古屋大学教育学部ティーチング・アシスタント	平成11年9月まで
平成11年 4月	名古屋市子ども適応相談センター非常勤セラピスト	平成13年3月まで
平成11年 4月	愛知医科大学医学部附属病院神経・精神科 非常勤臨床心理士	平成14年3月まで
平成11年 4月	東海医療工学専門学校非常勤講師	平成13年8月まで
平成11年 4月	名古屋市立名東高等学校非常勤スクールカウンセラー	平成15年3月まで
平成12年 4月	愛知県立岩津高等学校非常勤スクールカウンセラー	平成14年3月まで
平成12年 4月	愛知県立愛知看護専門学校非常勤講師	平成12年7月まで
平成13年 4月	名古屋市精神保健福祉センター非常勤臨床心理技術者	平成14年3月まで
平成13年10月	名古屋市精神保健福祉センター思春期家族教室非常勤講師	平成14年1月まで
平成14年 4月	名古屋市立山田中学校非常勤スクールカウンセラー	平成15年3月まで
平成14年 4月	東海医療福祉専門学校非常勤講師	平成15年3月まで
平成15年 4月	東京都板橋区立板橋第三中学校非常勤スクールカウンセラー	平成17年3月まで
平成15年 12月	立正大学心理臨床センター非常勤相談員	平成17年3月まで
平成17年 5月	ノースカロライナ大学シャーロット校心理学部客員研究員	平成20年5月まで
平成18年 8月	ノースカロライナ大学シャーロット校非常勤講師	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• PSY3123 Social and Personality Development</li> <li>• PSY3001 Topics in Psychology: Cross-Cultural Psychology)</li> </ul>	平成20年5月まで
平成20年 8月	オークランド大学心理学部アシスタントプロフェッサー	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• PSY245 Introduction to Individual Differences and Personality Psychology</li> <li>• PSY251 Statistics and Research Design</li> <li>• PSY362 Statistical Analysis on Computers</li> <li>• PSY445 Seminar in Individual Differences and Personality Psychology</li> </ul>	現在に至る

学会，社会における活動等		
年 月	事 項	
平成 8年 4月	日本教育心理学会会員	(平成21年7月まで)
平成 9年 4月	日本健康心理学会会員	(平成21年7月まで)
平成 9年 4月	日本心理学会会員	現在に至る
平成11年 4月	日本心理臨床学会員	現在に至る
平成12年 4月	日本臨床心理士会会員	現在に至る
平成14年12月	東京都臨床心理士会会員	現在に至る
平成16年 3月	International Network on Personal Meaning	(平成20年3月まで)
平成18年 3月	Association for Psychological Science	(平成19年3月まで)
平成18年 8月	International Society for Traumatic Stress Studies	現在に至る
平成20年 11月	日本トラウマティック・ストレス学会	現在に至る
平成22年 3月	American Psychological Association (APA)	現在に至る
平成22年 10月	Michigan Academy of Science, Arts and Letters	現在に至る
平成24年 10月	Midwestern Psychological Association (MPA)	(平成25年3月まで)
平成19年 10月	学会誌「International Counseling Psychology Conference」査読担当	現在に至る
平成19年 11月	機関誌「Journal of Traumatic Stress」査読担当	現在に至る
平成20年 9月	機関誌「Anxiety, Stress, and Coping」査読担当	現在に至る
平成21年 8月	機関誌「Disability and Rehabilitation」査読担当	現在に至る
平成21年 8月	機関誌「American Journal of Orthopsychiatry」査読担当	現在に至る
平成21年 11月	機関誌「Psycho-Oncology」査読担当	現在に至る
平成22年 2月	機関誌「BioPsychoSocial Medicine」査読担当	現在に至る
平成22年 9月	機関誌「Personality and Individual Differences」査読担当	現在に至る
平成22年 9月	機関誌「Evolutionary Psychology」編集委員会メンバー	現在に至る
平成22年 10月	機関誌「Humor」査読担当	現在に至る
平成22年 12月	機関誌「Journal of Social and Clinical Psychology」査読担当	現在に至る
平成23年 4月	機関誌「Journal of Family Issues」査読担当	現在に至る
平成23年 8月	機関誌「感情心理学研究」査読担当	現在に至る
平成23年 9月	機関誌「Disability Studies Quarterly」査読担当	現在に至る
平成23年 12月	機関誌「Hellenic Journal of Psychology」査読担当	現在に至る

平成25年 5月	機関誌「Japanese Psychological Research」査読担当	現在に至る
平成25年 10月	機関誌「心理学研究」査読担当	現在に至る
平成25年 10月	機関誌「Stress & Health」査読担当	現在に至る
平成25年 11月	機関誌「Journal of Applied Developmental Psychology」査読担当	現在に至る
平成26年 1月	機関誌「Journal of Cross-Cultural Psychology」査読担当	現在に至る
平成21年 8月	チェコ共和国科学研究費助成金「Czech Science Foundation Grant Proposal (CSF)」 申請書査読担当	現在に至る
平成21年 9月	オーストリア共和国科学研究費助成金「Austrian Science Fund (FWF)」 申請書査読担当	現在に至る
平成21年 9月	イースタンミシガン大学、修士論文の外部査読委員会メンバー（平成23年3月まで）	
平成23年 9月	アメリカ国立衛生研究所(NIH), Early Career Reviewer Programのメンバー	現在に至る
資 格 等		
年 月	事 項	
平成 8年 3月	小学校教諭1種免許	
平成10年 3月	小学校専修免許	
平成12年 4月	臨床心理士(財団法人日本臨床心理士資格認定協会第8235号)	
平成26年2月1日		
上記の通り相違ありません 氏名 宅 香菜子		

## 研 究 業 績 一 覧

平成 26 年 2 月 1 日現在

### < 著 書 >

1. 宅香菜子 (2010). 外傷後成長に関する研究：ストレス体験をきっかけとした青年の変容. 風間書房
2. 宅香菜子 (印刷中). 悲しみから人が成長するとは. 風間書房

### < 翻 訳 書 >

1. 宅香菜子・清水研 (2013). 心的外傷後成長ハンドブック：耐え難い体験が人の心にもたらすもの. 医学書院

### < 分担執筆著書 >

1. Taku, K. (2010). Posttraumatic growth in Japan: A path toward better understanding of culture-constant and culture-specific aspects. In R. Berger., & T. Weiss (共編). *Posttraumatic growth and culturally competent practice: Lessons learned from around the globe*. (pp. 146-163). Wiley, John & Sons.
2. 宅香菜子 (2012). アメリカにおける PTG 研究：文化的観点から. 近藤卓編著 PTG 心的外傷後成長：トラウマを超えて 金子書房

### < 学術論文 >

1. 宅香菜子 (2004). 高校生における「ストレス体験と自己成長感をつなぐ循環モデル」の構築-自我の発達プロセスのさらなる理解にむけて- 心理臨床学研究, **22**, 181-186.
2. 宅香菜子 (2005). ストレスに起因する自己成長感が生じるメカニズムの検討-ストレスに対する意味の付与に着目して- 心理臨床学研究, **23**, 161-172.
3. Taku, K., Calhoun, L. G., Tedeschi, R. G., Gil-Rivas, V., Kilmer, R. P., & Cann, A. (2007). Examining posttraumatic growth among Japanese university students. *Anxiety, Stress, & Coping*, **20**, 353-367.
4. Taku, K., Cann, A., Calhoun, L. G., & Tedeschi, R. G. (2008). The factor structure of the Posttraumatic Growth Inventory: A comparison of five models using confirmatory factor analysis. *Journal of Traumatic Stress*, **21**, 158-164.
5. Taku, K., Calhoun, L. G., Cann, A., & Tedeschi, R. G. (2008). The role of rumination in the coexistence of distress and posttraumatic growth among bereaved Japanese university students. *Death Studies*, **32**, 428-444.
6. Kilmer, R. P., Gil-Rivas, V., Tedeschi, R. G., Cann, A., Calhoun, L. G., Buchanan, T., & Taku, K. (2009). Use of the revised Posttraumatic Growth Inventory for Children (PTGI-C-R). *Journal of Traumatic Stress*, **22**, 248-253.
7. Taku, K., Cann, A., Tedeschi, R. G., & Calhoun, L. G. (2009). Intrusive versus deliberate rumination in posttraumatic growth across U.S. and Japanese samples. *Anxiety, Stress, & Coping*, **22**, 129-136.

8. Taku, K., Tedeschi, R. G., Cann, A., & Calhoun, L. G. (2009). The culture of disclosure: Effects of perceived reactions to disclosure on posttraumatic growth and distress in Japan. *Journal of Social and Clinical Psychology*, **29**, 1226-1243.
9. Cann, A., Calhoun, L. G., Tedeschi, R. G., Taku, K., & Vishnevsky, T. (2010). A short form of the Posttraumatic Growth Inventory. *Anxiety, Stress, & Coping*, **23**, 127-137.
10. Cann, A., Stilwell, K., Taku, K. (2010). Humor styles, positive personality and health. *European Journal of Psychology*, **3**, 213-235.
11. 宅香菜子 (2010).がんサバイバーの Posttraumatic Growth : 特集/がん患者のサバイバーシップ. 腫瘍内科 (科学評論社) , **5**, 211-217.
12. Taku, K. (2011). Commonly-defined and individually-defined posttraumatic growth in the U.S. and Japan. *Personality and Individual Differences*, **51**, 188-193.
13. Taku, K., Kilmer, R. P., Cann, A., Tedeschi, R. G., & Calhoun, L. G. (2012). Exploring posttraumatic growth in Japanese youth. *Psychological Trauma: Theory, Research, Practice, and Policy*, **4**, 411-419.
14. Taku, K. (2013). Posttraumatic growth in American and Japanese men: Comparing levels of growth and perceptions of indicators of growth. *Psychology of Men and Masculinity*, **14**, 423-432.
15. Taku, K., Tedeschi, R. G., & Cann, A. (印刷中). Relationships of posttraumatic growth and stress responses in bereaved young adults. *Journal of Loss and Trauma*.
16. Taku, K., & Cann, A. (印刷中). Cross-national and religious relationships with posttraumatic growth: The role of individual differences and perceptions of the triggering event. *Journal of Cross-Cultural Psychology*.
17. Taku, K. (印刷中). Relationships among Perceived Psychological Growth, Resilience and Burnout in Physicians. *Personality and Individual Differences*.

#### ＜その他の論文（紀要等）＞

1. 神藤貴昭・野上奈生・住友育世・齋藤誠一・佐藤眞子・吉田圭吾・柳原利佳子・山本智一・森田英夫・寺村忠司・坂口喜啓・田中孝尚・舩井律子・松田信樹・山口昌澄・二宮奈津子・宅香菜子 1997 阪神・淡路大震災の心理的影響に関する研究 神戸大学発達科学部研究紀要, **4**, 2, 59-73.
2. 宅香菜子 1998 ストレス対処方略が青年の適応感・充実感に及ぼす影響 千葉大学修士論文 (未公刊)
3. 宅(青山) 香菜子 2000 分裂病女性との心理面接過程—彼女にとって「秘密」とは— 心理臨床—名古屋大学教育学部心理教育相談室紀要—第 15 巻, 45-53.
4. 宅(青山) 香菜子 2001 妊娠を機に来談した 31 歳女性との面接過程 心理臨床—名古屋大学教育学部心理教育相談室紀要—第 16 巻, 31-39.
5. 宅(青山) 香菜子・濱口佳和 2001 ストレス対処方略の相補的影響—学級適応感・ストレス反応への影響の比較 千葉大学教育学部研究紀要, **49**, I : 教育科学編, 19-28.
6. 宅香菜子 2002 思春期の自我発達に関する新たなモデル構築の提案—ストレス体験過程の積極的意義に着目して— 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 (心理発達科学) , **49**, 169-179.
7. 宅香菜子 2004 スクールカウンセリング活動における教師へのコンサルテーション過程—「ストレス体験と自己成長感をつなぐ循環モデル」の実践場面への応用— 「心理臨床」名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター心理発達相談室紀要, **19**, 49-58.
8. 宅香菜子 2005 ストレス体験をきっかけとした青年の成長に関する研究 名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士学位論文 (未公刊) .

＜国際会議発表論文：シンポジウム＞

1. Taku, K. (2006, 11 月). *The Japanese version of the posttraumatic growth inventory*. Symposium paper presented in L. G. Calhoun's (Chair), The assessment of posttraumatic growth in different cultural contexts, at the 22nd annual meeting of the International Society for Traumatic Stress Studies (ISTSS), Hollywood, CA.
2. Taku, K. (2008, 11 月). *Posttraumatic growth among Japanese middle school students*. Symposium paper presented in R. P. Kilmer's (Chair), Examining posttraumatic growth in children and youth: Cross-cultural findings, at the 24th annual meeting of the International Society for Traumatic Stress Studies (ISTSS), Chicago, IL.
3. Taku, K. (2012, 8 月). *Cross-cultural differences in the perceived favorability of posttraumatic growth experiences*. Symposium paper presented in R. G. Tedeschi (Chair), Similarities and differences in posttraumatic growth across cultures, at the 120<sup>th</sup> annual convention of the American Psychological Association (APA), Orlando, FL.

＜国際会議発表論文：ポスター発表及び口頭発表＞

1. Taku K., Calhoun, L. G., Tedeschi, R. G., & Cann, A. (2006, 5 月). Self-disclosure of stressful experiences correlates with growth in Japanese university students. Poster session presented at the 18th Annual Convention of the Association for Psychological Science (APS), New York, NY.
2. Taku K., Calhoun, L. G., Tedeschi, R. G., Cann, A., Kilmer, R. P., & Gil-Rivas, V. (2006, 8 月). Posttraumatic growth and cognitive processing in Japanese university students. Poster session presented at the 114th Convention of the American Psychological Association (APA), 52-International Psychology Division, New Orleans, LA.
3. Taku K., Calhoun, L. G., Tedeschi, R. G., Kilmer, R. P., Gil-Rivas, V., & Cann, A. (2006, 11 月). Recipients' responsiveness correlates with posttraumatic growth in Japanese university students. Poster session presented at the 22nd Annual of the International Society for Traumatic Stress Studies Meeting (ISTSS), Hollywood, LA.
4. Taku, K., Cann, A., Calhoun, L. G., Tedeschi, R. G., & Lindstrom, C. (2007, 11 月). Willingness to disclose, posttraumatic growth, and rumination in Japanese students. Poster session presented at the 23rd annual meeting of the International Society for Traumatic Stress Studies (ISTSS), Baltimore, MD.
5. Taku, K., Kilmer, R. P., Tedeschi, R. G., & Calhoun, L. G. (2007, 11 月). Using school programming to help Japanese youth recognize posttraumatic growth. Poster session presented at the 23rd annual meeting of the International Society for Traumatic Stress Studies (ISTSS), Baltimore, MD.
6. Taku, K., Calhoun, L. G., Kilmer, R. P., & Tedeschi, R. G. (2008, 3 月). Post-traumatic growth and non-traumatic growth in Japanese youth. Paper session presented at the 54th annual meeting of the Southeastern Psychological Association (SEPA), Charlotte, NC.
7. Taku, K., Vishnevsky, T., Cann, A., Kilmer, R. P., Tedeschi, R. G., & Calhoun, L. G. (2008, 8 月). Perceived responsibility correlates with posttraumatic growth in Japanese youth. Poster session presented at the 116th annual convention of the American Psychological Association (APA), 52 – International Psychology Division, Boston, MA.
8. Vishnevsky, T., Lindstrom, C. M., Cann, A., Tedeschi, R. G., Calhoun, L. G., & Taku, K. (2008, 8 月). Core beliefs inventory: Effects of trauma on assumptive world beliefs. Poster session presented at the 116th annual convention of the American Psychological Association (APA), 56 – Trauma Psychology Division, Boston, MA.
9. Taku, K., Cann, A., Calhoun, L. G., & Tedeschi, R. G. (2008, 11 月). Testing the factorial

- equivalencies of the rumination items across a U.S. and Japanese samples. Poster session presented at the 24th annual meeting of the International Society for Traumatic Stress Studies (ISTSS), Chicago, IL.
10. Taku, K., Andreski, S. R., & Kilmer, R. P. (2009, 3 月). Perceived competence correlates with posttraumatic growth in Japanese adolescents. Poster session presented at the 115th Michigan Academy of Science, Arts, & Letters Annual Meetings, Detroit, MI.
  11. Kelley, J. M., Clark, C. R., Gambino, M. L., Maguire, K. L., Taku, K., & Stewart, R. B. (2009, 5 月). Effects of savoring and psychological well-being on satisfaction with life. Poster session presented at the 21st Annual Convention of the Association for Psychological Science (APS), San Francisco, CA.
  12. Taku, K., Kilmer, R. P., & Trevorrow, B. N. (2009, 8 月). Association between event-related rumination and posttraumatic growth in Japanese youth. Poster session presented at the 117th annual convention of the American Psychological Association (APA), 56 – Trauma Psychology Division, Toronto, Canada.
  13. Taku, K., Kilmer, R. P., & Phillips, M.S. (2009, 11 月). Assessing concordance between student and teacher ratings of posttraumatic growth in Japanese youth. Poster session presented at the 25<sup>th</sup> annual meeting of the International Society for Traumatic Stress Studies (ISTSS), Atlanta, GA.
  14. Taku, K., & Phillips, M. S. (2009, 11 月). Frequencies of posttraumatic growth experiences among Japanese university students. Poster session presented at the 25<sup>th</sup> annual meeting of the International Society for Traumatic Stress Studies (ISTSS), Atlanta, GA.
  15. Lewitzke, K., LaFramboise, A., & Taku, K. (2010, 3 月). Cross-cultural examination in posttraumatic growth: Comparison of parental divorce verses loss of immediate family member. Paper presented at the 116<sup>th</sup> Michigan Academy of Science, Arts, & Letters Annual Meetings, Grand Rapids, MI.
  16. Wrobel, N. C., & Taku, K. (2010, 3 月). Predicting structural equation modeling use through article characteristics. Paper presented at the 116<sup>th</sup> Michigan Academy of Science, Arts, & Letters Annual Meetings, Grand Rapids, MI.
  17. Phillips, M., & Taku, K. (2010, 8 月). Domains of posttraumatic growth correlates with changes in alcohol use. Poster session presented at the 118<sup>th</sup> annual convention of the American Psychological Association (APA), 56 – Trauma Psychology Division, San Diego, CA.
  18. Taku, K., Callan, S. P., & Phillips, M. (2010, 8 月). Faith, age, and stress associates with spirituality of posttraumatic growth. Poster session presented at the 118<sup>th</sup> annual convention of the American Psychological Association (APA), 67 – Religion Division, San Diego, CA.
  19. Taku, K., Rogers, L., Butler, T. C., Yanos, B. R., & Callan, S. P. (2011, 3 月). Exploring posttraumatic growth: Do additional domains exist? Paper presented at the 117<sup>th</sup> Michigan Academy of Science, Arts, & Letters Annual Meetings, Saginaw, MI.
  20. Taku, K., Yanos, B. R., Pierson, V. J. (2011, 3 月). Posttraumatic growth varying in event type: A cross-cultural study. Paper presented at the 117<sup>th</sup> Michigan Academy of Science, Arts, & Letters Annual Meetings, Saginaw, MI.
  21. Taku, K., Pierson, V. J., Callan, S. P., & Butler, T. C. (2011, 8 月). Gender and cross-cultural differences in personal strength: Roles of optimism and self-defined growth. Poster session presented at the 119<sup>th</sup> annual convention of the American Psychological Association (APA), 1 – Society for General Psychology Division, Washington, DC.
  22. Taku, K., Rogers, L., Yanos, B. R., & Callan, S. P. (2011, 8 月). Social encouragement for growth correlates with posttraumatic growth among bereaved college students. Poster session presented at the 119<sup>th</sup> annual convention of the American Psychological Association (APA), 56 – Trauma Psychology Division, Washington, DC.
  23. Eckleberry-Hunt, J., Kirkpatrick, H., Taku, K., Hunt, R., Vasappa, R., & Essian, J. (2012 年, 4 月). What makes a physician well: Development of the Physician Wellness Inventory. Paper presented at the 45<sup>th</sup> Society of Teachers of Family Medicine (STFM) annual spring conference, Seattle, WA.
  24. Taku, K., Pierson, V. J., & Sawa, M. S. (2012 年, 8 月). Subjective definitions of growth and religions



- correlate with posttraumatic growth. Poster session presented at the 120<sup>th</sup> annual convention of the American Psychological Association (APA), 56 – Trauma Psychology Division, Orlando, FL.
25. Taku, K. (2012 年, 11 月). Posttraumatic Growth. Keynote speech was presented at the interdisciplinary, cross-cultural, social service exchange conference, “Trauma, Resiliency, & Kokoro wo hiraku,” Chicago, IL.
  26. Taku, K. (2013 年, 5 月). Within-individual variability as an index of posttraumatic growth. Poster session presented at the 85<sup>th</sup> annual meeting of the Midwestern Psychological Association, Chicago, IL.
  27. Taku, K., Thomas, I., Elam, S. G., & McGuire, K. L. (2013, 5 月). Linguistic variances associated with psychological growth: Effect of collectivistic and individualistic climates. Poster session presented at the 85<sup>th</sup> annual meeting of the Midwestern Psychological Association, Chicago, IL.
  28. Taku, K., Elam, S. G., & Sawa, M. S. (2013, 11 月). Influence of resilience and posttraumatic growth on burnout in healthcare physicians. Poster session presented at the 29<sup>th</sup> annual meeting of the International Society for Traumatic Stress Studies (ISTSS), Philadelphia, PA.
  29. Britton, M., McGuire, K., LaLonde, L., & Taku, K. (2014, 2 月). The combined role of gender and religiosity on the self-esteem of American adolescents. Paper presented at the 120<sup>th</sup> Michigan Academy of Science, Arts, & Letters Annual Meetings, Rochester, MI.
  30. Elam, S., McGuire, K., & Taku, K. (2014, 2 月). Cross-cultural comparisons of the awareness of posttraumatic growth on positive psychological change among American and Japanese adolescents. Paper presented at the 120<sup>th</sup> Michigan Academy of Science, Arts, & Letters Annual Meetings, Rochester, MI.
  31. Taku, K., McGuire, K., & Elam, S. G. (2014, 8 月予定). Effects of priming the shared traumatic experiences on posttraumatic growth. Study abstract has been accepted for poster session to be presented at the 122<sup>nd</sup> annual convention of the American Psychological Association (APA), 1 – General Psychology Division, Washington, DC.
  32. Taku, K., Tedeschi, R. G., Cann, A., & Calhoun, L. G. (2014, 8 月予定). Core beliefs, rumination, and posttraumatic growth resulting from earthquake in Japan. Study abstract has been accepted for poster session to be presented at the 122<sup>nd</sup> annual convention of the American Psychological Association (APA), 56 – Trauma Division, Washington, DC.
  33. Tedeschi, R. G., Taku, K., Cann, A., & Calhoun, L. G. (2014, 8 月予定). Spiritual and existential posttraumatic growth in Japan and in the United States. Study abstract has been accepted for poster session to be presented at the 122<sup>nd</sup> annual convention of the American Psychological Association (APA), 67 – Religion Division, Washington, DC.

#### ＜日本国内学会発表論文：シンポジウム＞

1. 宅香菜子 2009 「トラウマを起因としたポジティブ及びネガティブな体験はいかに説明されるか」 シンポジウム（飛鳥井望・宅香菜子座長）「Posttraumatic Growth 研究の臨床的意義と今後の発展に向けて」日本トラウマティック・ストレス学会第 8 回大会発表論文集, 78.
2. 宅香菜子 2014（予定） 「スピリチュアルな成長を測定すること及びレジリエンスと P T G の関連」 シンポジウム（宅香菜子・西大輔座長）「Posttraumatic Growth 研究の現在と今後の展望そして臨床への示唆」日本トラウマティック・ストレス学会第 13 回大会発表論文（現在審査中）
3. 宅香菜子 2014（予定） 「トラウマから成長するということ：Posttraumatic growth の観点から」パネルディスカッション「大災害に対して心理学がしてきたこと・得たこと」日本教育心理学会第 56 回総会発表論文（現在審査中）

＜日本国内学会発表論文：ポスター発表及び口頭発表＞

1. 宅香菜子 1996 中学生・高校生の心的問題の顕在化に関する一考察：衝動的行動傾向と irritability の側面から 日本教育心理学会第 38 回総会発表論文集, 229.
2. 齋藤誠一・佐藤眞子・吉田圭吾・柳原利佳子・神藤貴昭・野上奈生・松田信樹・山口昌澄・住友育世・舛井律子・宅香菜子 1996 阪神淡路大震災の心理的影響に関する研究(1) 日本教育心理学会第 38 回総会発表論文集, 525.
3. 佐藤眞子・齋藤誠一・吉田圭吾・柳原利佳子・神藤貴昭・野上奈生・松田信樹・山口昌澄・住友育世・舛井律子・宅香菜子 1996 阪神淡路大震災の心理的影響に関する研究(2) 日本教育心理学会第 38 回総会発表論文集, 526.
4. 宅香菜子・濱口佳和 1997 ストレス対処方略とクラス替えに対する認知の関連 日本心理学会第 61 回大会発表論文集, 362.
5. 宅香菜子 1998 認知されたストレス対処方略の時間的安定性 日本心理学会第 62 回大会発表論文集, 409.
6. 三藤祥子・望月文明・宅香菜子・中澤潤 1998 いじめについての小・中学生の意識Ⅰ－いじめの許容度の因子構造－ 日本教育心理学会第 40 回総会発表論文集, 102.
7. 濱口佳和・笠井孝久・宅香菜子・望月文明 1998 いじめについての小・中学生の意識Ⅱ－いじめの許容度といじめ場面における対処との関連－ 日本教育心理学会第 40 回総会発表論文集, 103.
8. 宅香菜子 1999 ストレス対処方略が充実感・無力感に及ぼす影響 日本健康心理学会第 12 回大会発表論文集, 162-163.
9. 宅香菜子 2002 思春期の自我発達過程に及ぼすストレス体験の影響－ストレス体験の持つ積極的意義について語られた女子高校生の事例－ 日本健康心理学会第 15 回大会発表論文集, 146-147.
10. 宅香菜子 2003 中学生の自己成長感に及ぼすストレス体験の影響－ストレス体験に対する肯定的及び否定的な意味づけに関する自由記述の分析－ 日本教育心理学会第 45 回総会発表論文集, 238.
11. 宅香菜子 2004 高校生における「ストレスを起因とする自己成長感」の検討－ストレスの解決度合いとの関連－ 日本健康心理学会第 17 回大会発表論文集, 420-421.
12. 宅香菜子 2009 外傷後成長過程における意味の付与 日本トラウマティック・ストレス学会第 8 回大会発表論文集, 102.

＜科学研究費等助成金題目＞

1. 宅香菜子 2010. 5. 1 – 2011. 4. 30 外傷後成長 (Posttraumatic Growth) に及ぼす社会的期待と対人関係上の文脈の影響 オークランド大学 学部教授研究フェローシップ \$8500.
2. 宅香菜子 2012. 5. 1 – 2013. 4. 30 高校生における外傷後成長 (Posttraumatic Growth) に及ぼす教育介入プログラムの効果 オークランド大学 学部教授研究フェローシップ \$9500.

＜賞与＞

1. 宅香菜子 2010.4.14 オークランド大学 (Honored at the 15<sup>th</sup> Annual Faculty Recognition in the area of Research, Oakland University)
2. 宅香菜子 2011.1 オークランド大学 (Nominated for the 16<sup>th</sup> Annual Faculty Recognition in the area of Teaching, Oakland University)
3. 宅香菜子 2011.12.19 オークランド大学 (Received \$350 as Books, Reprints, and Page Charge Reimbursements (internal grant) from Oakland University Research Committee.)
4. 宅香菜子 2012.1 オークランド大学 (Nominated for the 17<sup>th</sup> Annual Faculty Recognition in the area of Teaching, Oakland University)

<その他>

1. 社団法人日本社会福祉士養成校協会（編） 第15回社会福祉士国家試験解説集 2003 中央法規出版 Pp.106-108.
2. 社団法人日本社会福祉士養成校協会（編） 第16回社会福祉士国家試験解説集 2004 中央法規出版 Pp.104-109.
3. 社団法人日本社会福祉士養成校協会（編） 第17回社会福祉士国家試験解説集 2005 中央法規出版 Pp.108-113.
4. 堀洋道（監修）松井豊・宮本聡介（編） 心理測定尺度集（第6巻） 2011 サイエンス社刊 日本語版外傷後の成長尺度（Japanese version of Posttraumatic Growth Inventory: PTGI-J） Pp.155-159

以上 相違ありません.

宅 香菜子